

【児童への話】

10月に入りました。一昨日の土曜日には、落五まつりが開かれました。楽しかったですね。落五まつりは毎年、PTA や地域の皆さんが一生懸命皆さんが楽しめるよう、準備してくれているものです。感謝の気持ちを持ち、それをしっかりと伝えられる落五のステキな皆さんでいてください。

さて今日は、「よいお勉強の仕方」についてお話しします。

「聞いたことは、忘れる。見たことは、覚える。やったことは、分かる。」という言葉があります。授業中、先生や友だちの話を聞いているだけでは、学習は身に付きません。「聞いたことは、忘れる」です。

自分でノートに書いたものや、DVD や実物を見たものは、それなりに覚えられます。「見たことは、覚える」です。でも、覚えたことは、使えなければ意味がありません。

そこで、何度も繰り返し練習したり、ちがうパターンの問題にあてはめて考えたり、それを使って友だちに説明したり、話し合っ解決したりするなど、自分からすすんで学習すると、とてもよく分かり、自分の記憶にずっと残り、使い続けることができる素晴らしい学習になります。これが、「やったことは、分かる」ということです。

小学校でいろいろな教科の学習をするのは、なぜだと思いますか？それは、皆さんがこれから生きていく上で必要な最低限のことを身に付けるため、そして、自分の中に、これから生きていくのに必要な知識の引き出しの種類を増やしていくためです。今はあまり好きではない学習でも、将来、意外な形で皆さんの役に立つことがあるかもしれません。小学校の学習で無駄なことは、ひとつもないんです。

先週は6年生の国会議事堂見学があり、いよいよ今週は5年生の女神湖移動教室があります。校長先生の大好きな落五小の皆さんには、これらの体験的な学習はもちろん、普段の学習でも自分から積極的に取り組むこと、やってみることで自分の知識や技能を高め続けて、「すすんで考える子」になって欲しいと思います。今日は、よいお勉強の仕方について、お話ししました。

【本講話について】

10月になり、気温が一気に和らいできました。何をするにも気持ちよい時期ですので、子どもたちの学習活動にじっくりと腰を据えて取り組んでいきたいと思います。子どもが安心して伸び伸びと過ごせる教育環境を整えていきます。

本日は、「学習の仕方」についての講話でした。体験的な学習は、自分が受け手ではないため、必ず子どもの心や考え方に大きな影響を与えてくれるものです。その時に自分はどう感じ、これからどうしていきたいのかを表現することを重視し、体験的で良質な教育活動を今後も展開していきます。地域の皆様のお力をぜひお貸しくさせていただきますよう、お願いします。